

なは地域貢献便り 11月

なは地域貢献便りとは、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

去る9月24日(木)第3回那覇市社会福祉法人等施設連絡会(真和志地区)が開催されました。

那覇市社協新本博司会長から開会の挨拶、そして県社協地域福祉部主任大城利公氏による講話「社協と社会福祉施設等が連携した地域課題の対応強化について」その後真和志地区の構成施設による意見交換が行われました。その概要を報告いたします。

構成施設

- ・おきなわ共生会 ・医療法人城南会 ・沖縄中央福祉会 彩風の杜なは
- ・乙羽会 ・繁多川公民館 ・日本赤十字社沖縄県支部 ・那覇市社協



— 第3回真和志地区の構成施設で開催された連絡会の報告 —



「社協と社会福祉施設等が連携した地域課題の対応強化について」講話

1. 各法人や役員間で、「地域における公益的な取り組み」への共通理解を図る
2. 各法人が、「地域を理解し、地域とつながる」という意識の醸成
3. 各法人と社協がこれまで以上に、連携協働を意識する。
4. 社会福祉法人等施設が向き合っている地域の生活課題を地域全体で共有

城南会

- ・認知症を理解するための講話
- ・リハビリテーションについての話、認知症に関する専門講話などの取組
- ・地域おそうじ隊(小緑みなみ診療所)
- ・つどいの場の提供(小規模 momo・アピタン・小規模はんたがわ)
- ・買い物支援(小緑みなみ診療所・デイさつき荘)
- ・認知症カフェ(小規模デイ識名・小規模 momo)
- ・認知症サポーター養成講座(キャラバンメイト)
- ・セルフトレーニングルーム設置

城南会という法人名は、平成元年に開設した識名診療所と平成6年開設の小緑みなみ診療所が首里城の南に位置するところから付けました。20年後には那覇市広域で医療・介護を担いたいという願望もこめていました。業務内容/内科・精神科・リハビリテーション科・心療内科・地域包括支援センター、他在宅支援を進めている。



医療法人 城南会 管理者 濱川尚志氏

繁多川公民館

- ・子どもの場所→NPOと連携 ご飯と一緒に作る
- ・包括と連携してワークショップ開催→実態調査
- ◎繁多川シェアマーケット60名が参加 →家の前に不要な物を出し合って分け合う →収益から活動に。お金やシェアする物資がなければ、大豆の選別などの軽作業。
- ・フードドライブから子供たちへ支援の輪を(課題)
- ・繁多川公民館まで物資を取りに来れない方へ、身近な拠点があれば。
- ・真和志エリア全体を目標として活動したい。

性別年齢を問わず、社会教育の視点で地域づくりを進めている。

特定非営利活動法人 1万人の井戸端会議 繁多川公民館 館長 南信乃介氏

沖縄共生会

- ・地域のボランティアさんの協力でもつりを開催
- ・ボランティアがいれば、重度の車いすの方の外出(海辺の散策等)の希望を叶えたい。
- ・子ども達の福祉体験の場に協力したい

小規模、地域密着型の特別養護老人ホーム(なごみ)定員29名 重度型入居施設で、医療機関と専門機関が連携し、最後まで安心して暮らせる環境とご家族とサービスの在り方を一緒に考え提供させていただきます。



社会福祉法人 おきなわ共生会 介護支援専門員 中西チエミ氏



生活相談員 上原哲也氏

沖縄中央福祉会

沖縄中央療護園を起点に、障害福祉事業・介護事業を宜野湾市、那覇市と拡げている。那覇市では障害福祉サービスとして、生活介護センター彩風の杜は定員20名、介護事業として通所介護センター・有料老人ホーム彩風の杜なはを運営している。



社会福祉法人 沖縄中央福祉会 彩風の杜なは 係長 國吉俊祐氏

- ・地域との関わりの機会が少ない
- ・台風時災害等の独居世帯への訪問介護が不可。→那覇市と協定を結び、台風時に障がい独居の方の支援を行った。
- ・台風時の避難受け入れをしている。
- ・地域の方へ正月におせち料理を提供出来たらと思っています。
- ・施設のホールを開放、リハスタッフによる介護予防も可能。
- ・ボランティア活動として清掃活動に参加したい。情報が欲しい。
- ・地域のクリーンアップ大作戦を那覇市でもやってみたい。
- ・地域の子供たちとの交流も考えている。

乙羽会

- ・国際中医薬膳師が薬膳食を提供している。
- ・職員不足→インドネシアから受け入れ。
- ・子どもたちの福祉体験の場は可能
- ・グリーンハウス国場では、災害時の避難所として開放。
- ・児童園を18歳で退所した子どもたちへ、次の夢をつかめるような奨学生制度を設けたい。



社会福祉法人 乙羽会 施設長 玉城正史氏

社会福祉法人 乙羽会は、沖縄の今帰仁村で、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護(予防)事業、居宅介護支援事業、デイサービス、小規模多機能型施設 SHIGERUHOUSE などのサービスをご提供しています。体に優しい食事 心が温まる食事 薬膳料理にも取り組んでいます。○那覇市国場にあるグリーンハウス国場地域密着型特別養護老人ホーム定員29名 短期入所サービス定員22名

日本赤十字社沖縄県支部

- ・救急法講習、防災に関する講習などの計画がありましたら、ご連絡ください。
- ・地域では、防災セミナー・防災教育を学校や企業等で実施
- ・災害時高齢者支援講習の実施
- ・地域赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成、活動推進

日本赤十字社の活動は、医療事業、災害救援活動、血液事業、看護師養成、救急法講習、ボランティア、社会福祉事業と幅広く多岐にわたる。沖縄県支部では、特養、児童館、老人憩の家といった那覇市の指定管理施設安謝複合施設を運営している。



日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課長 池原栄作氏

まとめ 社協のCSWの所見

1. 外国籍の方のボランティア登録で生きがいづくりに貢献できることが期待される。
2. 薬膳食の活用と、施設の四季折々の食事を民生委員などを通して必要な方へ届けられたらありがたい。
3. 与えるだけの支援ではなく、出番を創出する仕組みが大切
4. 法人の地域活動の参加は地域が待ち望んでいる。是非とも地域との連携の調整に努めたい。
5. 担い手の問題は深刻だが、明日の沖縄の福祉を担う介護人材育成のみでなく、福祉教育の場づくりとしても、施設の人の関りが期待されている。

那覇市社協地域福祉課統括主任 仲程大輔 那覇市社協真和志地区CSW 山城博子



法人の持つ強みを生かした地域貢献活動

社会福祉法人そてつの会 施設長 盛島光司

1997年4月に、開設された授産施設そてつ（現・ドリームワークそてつ）は、創始者の古波蔵延江さんが、前身の無認可小規模作業所を1981年に数名の保護者と養護学校卒業生で立ち上げて以来、今年で39年目を迎え、来年は40年目という歴史を持った事業所です。無認可の小規模作業所から法人化までの16年間、財政的に脆弱だった「そてつ」はボランティアや保護者の手弁当の協力によって支えられていたと聞いております。その頃のボランティアが、39年経った今にも引き継がれ、現在の「そてつ」が持つ強みを生かした「地域貢献」に繋がっていると思います。

1 古蔵中学校・そてつの会共催 （夏休みボランティア活動）体験講座の実施

法人化後、すぐに開催され、すでに20年以上の歴史を持つ「夏休みボランティア活動体験講座」。

夏休み期間中の古蔵中学校の生徒さんを「ボランティア」として受け入れ、学校や社会福祉法人、生徒や障がい者の相互理解を促進する為、そてつに通う利用者さんと一緒に作業を行い、交友を深めてもらう事業です。

毎年50名以上の生徒さんを受け入れ、この20年で延べ約1500人以上の生徒さんがボランティアとして参加しています。参加された生徒さん達は、隣接する「ドリームワークそてつ」に多くの障がい者が通っている事や、彼らが毎日熱心に作業に取り組み、普通に会話し、事業所での生活をエンジョイしてる様子を見て、驚き、時には感動を持ってボランティア活動に取り組んでいます。

因みに、本年度入職した新職員はこの中学生時代「夏休みボランティア体験講座」の経験をきっかけに障がい者福祉に興味をもち、ドリームワークそてつへの就職を果たしました。

生徒さんと障がい者の相互理解という小さな種まきが20年という歴史のなかで少しずつ、芽が出てきている事を実感しております。今後この活動をつづけ、障がい者福祉への理解を進めてまいります。



2 自治会、通り会活動への参加

現在、古波蔵地区自治会2か所（古蔵向陽自治会、古蔵自治会）への地域の活動にも自治会員として積極的に参加しています。

ドリームワークそてつの所在する古波蔵4丁目地区には公民館がなく、地域の集会所として自治会への施設の提供を行っています。自治会の敬老会では、2階の多目的室を提供し、地域の小学生から青年隊もエイサーを余興でお披露目し毎年にごやかな敬老会となっています。

また、通り会の活動では、「新春餅つき大会」に事業所を開放し、多くの地域の方々で賑わっています。



3 リサイクル活動を通じた地域の見守り支援



毎週金曜日、アルミ缶や古紙の回収を地域住民の協力のもと行いながら、地域の見守り支援を行っています。（現在、古紙は中止）見守りと同時に、そてつ利用者と地域住民が関わり合う機会にもなっています。

4 無料塾への施設及びパンの提供

ドリームワークそてつでは、毎日1,500個のパンを作っており、販売とは別にパンを無料塾に通う生徒さんに無料で提供しています。

無料塾には私どもが運営する「地域貢献室」を無償で提供しており、中学への通学が難しい生徒さんや学習の遅れが気になる生徒さんが通い、パンをおやつに勉強に励んでいます。今年で3年目となる無料塾ですが、毎年、高校への進学者を輩出しています。

また、地域で運営されている他の塾へもパンの提供を行っています。



5 那覇市社会福祉協議会との連携

昨年度、那覇市社会福祉協議会との連携により、夏休みの期間を利用し、ドリームワークそてつのパン工場にて、地域の子供たちを集めて「ピザ作り体験」を開催しました。

初めての体験で戸惑っていた子供たちも、自分でピザを作り、好きな具材をトッピングして、おいしく焼きあがったピザをみんなで食べ、楽しく過ごす事ができたと思います。今後もこの取り組みは継続したいと考えています。



みんなで作った
手作りピザ！
おいしいよ♪